



Risk Flash No.69 (Vol.3 No.7)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
 発行責任者：リスク研究センター長 久保英也
 〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1
 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189
 e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp
 Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>

- 研究紹介：共同研究の新しい体制を目指して・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 1
- 今週の論文紹介：ジョン・デューイの日本論・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 2
- 教員紹介：二宮健史郎・リスク研究センター通信・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 3

研究紹介

共同研究の新しい体制を目指して

くぼひでや
 リスク研究センター長 久保英也

リスク研究センターでは、滋賀大学のリスク研究を集積し、また新たなリスク研究分野を開拓するために国際共同研究を進めています。主要な共同研究先は、中国の東北财经大学（大連市）、韓国の啓明大学（大邱市）、ベトナムのハノイ国民経済大学（ハノイ市）の3大学です。

まず、中国の東北财经大学とは昨年5月の学長交流（佐和学長と李維安学長）以降、活動を活性化させており、現在、以下の共同研究プロジェクトを同時に推進しています。研究テーマは①公的医療保険プロジェクト<李リスク研究センター准教授、久保>、②日中生命保険会社のALM<楠田教授>、③動態的一般均衡モデルを用いた日中高齢化の影響<近藤豊将准教授>、④中国における地震保険制度の創設について<久保>の4つで、1年から2年の期間で進みます。なお、< >は滋賀大学側の主担当教員を表します。その中で①の研究概要についてご紹介します。中国の医療保障は大きく3つの公的医療保険制度からなり、最も普及が遅れていました新型農村合作医療保険制度は中期計画の最終年度である2011年までの3か年で大きく上昇し、医療保険普及率は9割となりました。しかしながら、給付や医療機関へのアクセスについての地域間格差や都市・農村部格差は引き続き大きい状況です。今後の制度設計が中国の医療保障の良否を決定しますが、この方策を医療の供給サイドから提言しようとするプロジェクトです。日本側研究者4名、中国側研究者5名からなります。

次に韓国啓明大学とは「琵琶湖の水リスク」プロジェクト<水野リスク研究センター客員研究員>を進めています。低頻度大規模災害が福井嶺南地域の原発を巻き込み発生した場合の琵琶湖の水質汚染や流域各自治体、関西経済への影響を生態系価値まで含め試算し、その対応を提案しようとするものです。滋賀大学環境総合研究センターと共同し、研究成果は、2013年の日韓国際環境シンポジウム、2015年の世界水フォーラム（韓国で大邱市で開催）で報告することを考えています。一方、地域社会貢献と共同研究基盤の拡大の観点から関西広域連合と韓国の広域連合である「大慶圏広域経済発展委員会」との協業をコーディネートしています。両広域連合は2012年3月31日にリスク研究センターの仲介で、MOU（業務覚書）を締結しました。具体的には、日韓中小企業のビジネスマッチングを推進するため、金准教授を軸に2012年10月には「琵琶湖環境ビジネスメッセ」の中で日韓環境企業フェアを進める予定です。

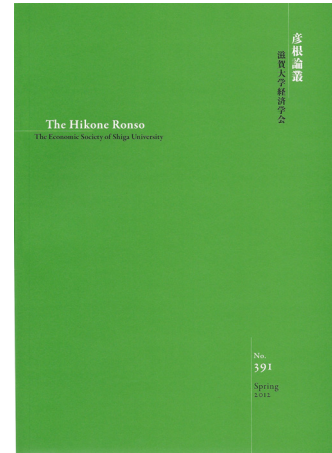
最後に、ベトナムのハノイ国民経済大学とは、昨年11月に先方の副学長、保険学部長、国際経済学部長と会談し、①男女の労働格差問題（ジェンダー問題）を山田和代准教授が、②ベトナムにこの2月に誕生した生命保険契約者保護機構の評価、を久保が行うことになりました。

このように従来の共同研究が個人の研究者同士の関係で進んだのに対し、リスク研究センターではこれを組織化し、大学のトップ交流と共同研究者同士の研究を同時に進めることで安定的かつ長期的な研究体制を確立することを目指しています。

今週の論文紹介

ジョン・デューイの日本論

著者：滋賀大学名誉教授 こにしなかつ 小西中和
収録：『彦根論叢』391号



著者のつぶやき

20世紀前半のアメリカの代表的な知識人の一人であり、プラグマティズムの哲学者として著名なジョン・デューイは、第一次大戦が終わり、パリで講和会議が始まって間もない頃の1919年1月22日にサンフランシスコから極東に向けて旅立ち、2月9日に横浜に到着しました。日本に2ヶ月ほど滞在した後に、中国に向かい約2年余りの間そこに滞在しました。そして1921年7月末にアメリカに帰国する途中にも数日間日本に立ち寄っています。デューイは滞在中の見聞をもとに当時の日本や中国について、また極東における国際関係について評論をアメリカの雑誌や新聞に書き送っています。また、東京帝国大学での集中講義は『哲学の改造』というタイトルで後に公刊され、彼の主著の一つになっています。彼の中国論については別稿（拙著『ジョン・デューイの政治思想』）で検討したことがあります。本稿では、それとの関連で、日本のリベラリズムや中国政策をめぐる日米関係などについての彼の見方を紹介し、検討しました。

デューイはいわゆる大正デモクラシー期の日本の自由主義のあり方について検討する中で、天皇制国家の支配原理であった「神権的イデオロギー」（「国体」思想）に鋭い分析を試み、真の自由主義の定着のためにはその呪縛力からの精神の解放が必要ではないかと指摘しました。

また、デューイは中国政策をめぐる緊張を増しつつあった当時の日米関係についても検討し、日本の侵略的な対中国政策を批判しながら、他方で、当時の日米開戦説にみられるアメリカにおける対日強硬策の高まりに自制を求めています。それは、国際紛争を解決する手段としての戦争を放棄するという彼の思想原理に基づいていました。この思想は戦争違法化と呼ばれましたが、彼はこれの実現のために1920年代アメリカの平和運動に参加し、1928年の不戦条約の成立を推進する有力な知識人の一人になりました。

不戦条約の成立にもかかわらず、日米戦争を回避することはできませんでしたが、国際紛争において軍事的手段の行使、つまり戦争が問題の根本的解決をもたらさないという戦争違法化思想は今日でもなお重要な意義を持っているように思われます。

憲法9条の思想的源泉の一つにもなっているこの思想について研究を進めているところです。

教員紹介 「二宮健史郎」

私が滋賀大学経済学部に着任したのは、1995年の4月です。早いもので15回も彦根城の桜を見ました(2回は在外研究中)。1995年1月に発生した阪神淡路大震災で被災し、心身ともに極度に疲弊していましたが、絢爛な桜はその心を少しだけ癒してくれました。折れそうな心を必死に奮い立たせようとしたのですが、滋賀大学での研究生活のスタートは色々な面で決して恵まれたものであったと言えるものではありませんでした。

しかしながら、いかなる境遇に置かれても最善を尽くすということを常に心の内に秘めて地道に努力を重ね、ようやく2006年に中央経済社から『金融恐慌のマクロ経済学』を上梓することができました。この著書は、現下の世界的な金融危機により注目を集めている異端の経済学者 H.P. ミンスキーの金融不安定性仮説を独自の視点で数理モデルに展開したものです。

研究では、「OUT-PUTするのは思考の完成品だけではなく、むしろ思考の製造過程そのもの」ということである。思考の製造過程はもちろん不完全であり、そのOUT-PUTはしばしば『恥を晒す』ことにもなりかねない。しかしながら、これは全く『恥』ではなく、思考の過程をOUT-PUTしないことこそ研究者にとって恥である」という著名な数理マルクス経済学者である故置塩信雄先生(私は孫弟子にあたります。)の教えにより自らを戒めています。この教えは、折に触れ学生諸君にも伝えていきます。教育では、ゼミ活動に特に力を入れています。活動の様子は、HPを随時更新しておりますので、ご覧ください。(http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/sensei/k-nino/index.html)

学生時代には友人とよくカラオケに行ったのですが、35歳を過ぎたあたりから曲や歌詞を覚えられなくなり、忙しさもあつてか10年以上行っていません。現在の趣味(?)は、子育てでしょうか。研究室が近い宇佐美教授より常日頃から子育ての薫陶を受けています。映画と言えば、「ドラえもん」「ポケモン」「名探偵コナン」等しか行きませんが(特に「ポケモン」は苦痛でした…)、一緒に行って頂くという気持ちを持たないとダメだそうです。不惑の年を超えましたが、公私にわたりまだまだ修養が足りないと思う今日この頃です。

にのみやけんしろう
ファイナンス学科教授 二宮健史郎



リスク研究センター通信

経済学部生が日経 STOCK リーグで入選しました

第12回日経 STOCK リーグの審査結果発表があり、経済学部の文化サークル「株式投資研究会」のメンバーの2チームが、全国1,420チームが参加する中、大学部門で5位入選を果たしました。「株式投資研究会」は株式投資という観点から経済を研究する団体で、今回、入選の栄誉に輝いたのは1・2回生の学生各5名で構成される2つのチーム。参加した両チームともに入選を果たすのは「株式投資研究会」発足以来初。



喜びの受賞したメンバー

日経 STOCK リーグとは、日本経済新聞社が主催する中学生、高校生、大学生を対象にした「自主テーマによるポートフォリオ学習」及び「レポートコンテスト」で、各自の投資テーマに沿った論文作成およびポートフォリオづくりなどを通じて、生きた経済に触れ、自ら考え、学んでいく力を身につけるものです。

にかみきよし
(指導教員：ファイナンス学科教授 二上季代司)

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・変更してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

(<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3/12>)

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、金秉基、久保英也、
柴田淳郎、得田雅章、宮西賢次、山田和代

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月一金 10:00-17:00）
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>